

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 2 5 回 次世代に引き継ぐ 淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会		
事務局 (担当課)	都市計画課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 7 (直通)	
	生涯学習課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 7 (直通)	
	公園課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 3 (直通)	
開催日時	令和 5 年 3 月 2 1 日 (火・祝) 午前 9 時 3 0 分～正午		
開催場所	けやき会館 2 階 職員研修所 大研修室		
出席者	市民検討会 委員	2 0 人 (9 ページのとおり)	
	有識者協 議会委員	4 人 (9 ページのとおり)	
	その他	5 人 (各施設担当者)	
	事務局	1 0 人 (都市計画課長、生涯学習課長他 8 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	2 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由			
会議次第	<開会あいさつ> 1 オープンハウス型説明会及び市民説明会の開催結果 について 2 パブリックコメントの実施結果について 3 市民検討会を振り返って 4 有識者協議会委員による講評		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。（◎は市民検討会委員の発言、○は有識者協議会委員の発言、●は事務局の発言）

1 経 過

都市計画課長による開会の後、要綱第5条第3項の規定に基づき、有識者協議会の野口会長進行のもと、傍聴の確認を行った後、市民説明会やパブリックコメントの結果等について事務局から説明し、質疑応答を行った。

最後に、これまでの市民検討会を振り返るとともに、有識者協議会委員から講評をいただいた。

2 議 事

(1) オープンハウス型説明会及び市民説明会の開催結果、パブリックコメントの実施結果について

事務局から資料に基づき説明した後、質疑応答を行った。

◎： 市民説明会で出された意見の中で、「平成29年基本計画（案）より前の段階に遡ったものなのか？」という質問があったようだが、どういう趣旨の質問だったのか。平成29年度に公表した基本計画（案）よりも前の段階のものが何かあるのか。

●： 質問された方のビジョン（案）に対する印象や受け止め方による発言であったので、何を指しているかの特定はできていない。

◎： 市民説明会は天候のせいもあったのか、思ったほど参加者が集まらなかったようだが、全体的な雰囲気として、今回のビジョン（案）に関しては、ポジティブだったのか、それともネガティブだったのか。

●： 平成29年度に開催した市民説明会とは異なり、今回の市民説明会やオープンハウスの印象としては、皆さん100%納得しているということではないかも知れないが、一定のご理解はいただいているような雰囲気だったと感じている。

◎： パブリックコメントの全体的な雰囲気はどうか。また、資料P3に、淵野辺駅南口の開発をしてほしいという意見があるが、今回のビジョン（案）によると南口は色々と変わることになると思うが、北口の間違いではなく、南口に対する意見だったのか。

●： パブリックコメントで寄せられた意見の全体的な雰囲気についても、市民

説明会やオープンハウスと同様である。ビジョン（案）に反対するような意見も中には寄せられているが、全体的な傾向としては、具体的な提案など、前向きな意見が多かったと感じている。

●： まちづくりについては、長期的なスパンを考えて淵野辺駅南口駅前の開発をしてほしいという趣旨の意見であった。

◎： この間、まちづくり会議や公民館から要望があり説明も行っていると思うが、その時の印象や、どのような意見が出たか教えてほしい。

●： 大野北公民館の利用サークル協議会から要望があり、ビジョン（案）の内容を説明する機会をいただいた。ビジョン（案）に関する質疑応答だけでなく、その先の内容として、複合施設内の市民利用スペースについても、具体的な意見交換をすることができた。また、市側からも、具体的な質問をさせていただいた。今後も、こういった施設利用者の方々との意見交換はさせていただきたいと考えている。

まちづくり会議からは、あさひ児童館を複合化対象施設とすることについて、懸念される事項があるといった意見をいただいた。今後、複合施設の運営方法等を検討していく中で、整理をしていきたいと考えている。

◎： 平成29年度のころの状況を忘れてしまっている人もいて、当時とは雰囲気異なるのではないか。これからも、情報発信をしっかりとお願いしたい。

◎： 大野北地区まちづくり会議とこの市民検討会の関係について、市民検討会で検討した内容はまちづくり会議でも説明されたと思うが、市民検討会とは若干考え方の違いがあったのではないか。何かそのように感じられることはあったか。

●： 公共施設が老朽化していることの課題については、まちづくり会議からも長年の課題だと伺っており、その解決に向けた取組が必要だということは、同じ考え方だと思っている。公共施設の複合化をすることは前向きに捉えているが、その中で、児童館については、懸念している部分もあるといったご意見をいただいた。市としても今後検討を進めていく際には、慎重に考えていく必要があると思っている。

●： 市民検討会の検討状況は、検討の節目を捉えてまちづくり会議にも報告してきた。市民検討会の検討内容を伝えることはできていたが、まちづくり会議で出た意見を市民検討会にフィードバックするという点では、事務局として足りない部分があったと感じており、反省している。引き続き、まちづくり会議や様々な施設の利用団体の方々との意見交換をしていく必要があると改めて感じたところである。

- ◎： まちづくり会議の会議録等を見ると、伝わり切っていない部分もあったと感じている。まちづくり会議と市民検討会で、情報共有や意見交換をする場があってもよかったのではないかと感じている。今後もまちづくり会議で色々と意見が出され、市民検討会で検討した内容が変わってしまうと、これまで検討してきた意味がなくなってしまう。今後どうなっていくのか不安な部分ではあるが、ぜひそこはうまく調整して行ってほしい。
- ◎： 市民説明会やパブリックコメントでも、青少年学習センターが移転することについて意見が出ているようだ。他の複合化対象施設とは異なり、矢部駅の北口エリアに設置されている施設であるが、公民館と同様に施設利用者等への説明は行っているのか。
- ： これまでも、市民検討会の検討状況については、青少年学習センターの運営協議会や利用者懇談会の場で報告をしてきた。パブリックコメントの意見募集期間中にも説明に伺いたいと考えていたが、施設側の日程が合わず、ビジョン（案）について説明や意見交換の機会を設けられていない。3月下旬から4月に開催予定だと伺っており、パブリックコメントの意見募集期間は終わっているが、今後に向けた説明や意見交換はさせていただく予定である。
- ◎： 今後のスケジュールについて確認したい。令和11年度に竣工となっているが、新しい建物が建ち、運営が始まるということか。
- ： その通りである。
- ◎： この後、市民検討会の振り返りに移ると思うが、最後に意見だけを言ってガス抜きして終わりということではなく、本当に今後どう繋げていくのか、どう改善すべきなのか、しっかりと話をしたいと思う。まちづくり会議との関係性の在り方、今回の市民検討会の結果を生かして、次にどう繋げるのか、しっかりやっていただきたい。
- ： 本日の市民検討会が最終回となるが、これまで培ってきたものをどうやって最終的な形に繋げていくかが重要になってくる。そういったところは、この後の振り返りの中で意見をいただくとともに、市としてもいただいた意見を踏まえて、事業を進めていきたい。
- ◎： オール相模原の問題と、大野北地区の問題という部分ははっきりしている。さらに地域の問題として、児童館の問題がある。色々と議論をさせていただき、ある程度考え方は伝わったと思うが、今後も大野北地区の自治会や、まちづくり会議と引き続き情報交換をお願いしたい。特に児童館の関係につ

いては、先日も児童館の運営委員会へ説明に来ていただいた。そういった情報交換の場は今後も継続して設けていただきたい。

- ：引き続き意見交換をさせていただきたいと考えている。
- ◎：児童館を複合化対象施設に含めることについて、なぜ今になって慎重な意見が出てくるようになったのか。何が課題なのか。
- ：まちづくり会議では、セキュリティの部分に関して懸念や不安があった意見をいただいた。現在のあさひ児童館は単独の建物であるため、児童館に来る人も限られているが、様々な利用者がある複合施設の中に入ること、児童の安全を確保できるのか、最近になって気になり、意見としていただいたということである。

また、あさひ児童館は、地元の旭町自治会の方が、児童館として使われていない時間帯に利用をしているという実態もある。自治会としての活動の場を新たな複合施設の中でどのように確保していくか、ご質問やご意見をいただいている。

- ◎：私はまちづくり会議をずっと傍聴してきた。先ほどの質問は、そもそも平成29年度に公表された基本計画（案）の段階で児童館は複合化対象施設に含まれていたにもかかわらず、なぜ今になって、また検討の後半になってから意見が出てくるようになったのかという疑問だと思う。

私がまちづくり会議を傍聴していて思ったのは、平成29年度の基本計画（案）では、児童館の跡地は売却することが前提の計画であったから、もう仕方がないという話だったが、今回は必ずしも売却だけが選択肢ではないという状況になり、そうであれば、児童館を残せるのではないかというような話が出てきたのかなと思った。

(2) 市民検討会を振り返って

事務局で用意した付箋に、これまでの市民検討会を振り返って、良かった点、気になった点、感じたことなどを市民検討会委員が記入をした後、一人ずつ内容を発表し、全体で共有をした。

(3) 有識者協議会委員による講評

- ：皆さん、本当に長い間、お疲れ様でした。私自身、非常に勉強になることが多く、公園という場を考えるととても大事な機会になった。

先ほど皆様のお話を伺う中で、「次世代」など、この先を見据えたコメントをたくさんいただいたことがすごく良いと思う。例えば、他の自治体では、子どもの利用がうるさいという理由で公園が閉鎖されたり、公園の樹木の倒木によって、中学生が怪我をしたりする事故が起きるなど、公園行政を取り

巻く問題はとても多い。実際に私が知っている中でも、子どもが利用できる時間を制限したり、大人の方がきれいに使えるということで、大人向けの施設を優先したりする事例もある。この市民検討会に来て、私が一番嬉しかったのは、公園の使い方として、子どもたちがいることを容認していることである。本来のあるべき公園の姿だと思う。子どもが利用することを受け入れた上で検討が進んでいくのは、非常に清々しく、だからこそ、議論が白熱したこともあったが、全てが前向きに進んでいるという風を感じた。

公園の中に施設を建てるという問題はいつから起こったのかということ、日比谷公会堂にまで遡る。あの日比谷公園ですら、こんな都会の中心にオアシスを作ったのに、こんな施設を建ててどうするのかと問題になっていた。ただ、それも徐々に受け入れられ、現在ではミュージシャン達にとってのステータスとなっている。公園とはどのような場なのか。公園に関する過去150年の新聞記事を全て見てみたところ、公園は文化施設であり、文化を生む場であるため、それを色々な形で皆さんが関わりながら享受していき、また作り上げていき、場合によってはそれを作り変える必要がある施設なのだという事を認識した。「まちづくり」が今回のキーワードであるが、同時にそれは公園という場作りでもある。また、「次世代」という言葉が出てくるからには、人作りの場でもある。それがこの議論の中心であり続けたこと自体はとても良かったという風に考えている。

皆さん色々のご苦労されたと思うが、整えていただいた事務局の方にお礼申し上げるとともに、私にたくさん勉強させていただいた市民の皆様に改めてお礼を申し上げる。特に一番嬉しかったのは、色々な自治体の方の話の聞いていると、公園課の方が諦めを持って話されるところが多い中で、相模原市の公園課の方は、非常にポリシーを持っていて、都市のバッファゾーンになるために、公園があるのではない、別に木を切りたくて切るのではない、木を切ることで救える何かがあるかもしれないといったことを強く感じられたことが、公園行政を考える中では私の1番の収穫であったと思う。

だからこそ、今スタートラインに乗るか乗らないかのところで、今後のスケジュールとして、次世代並びに次世代を作る方々を交えた上で、使い方や今後の運営の仕方を考える場を作っていただきたいと思う。非常に私自身勉強になりましたので、何かお役に立てる機会があればまた参画させていただけたらと思う。本当に皆さんありがとうございました。(押田委員)

- ： 市民参加を専門としており、その立場から、事務局に対しても強めの意見を言ったこともあった。これからの話を2点したいと思う。

まず、目指すところは、公園と建物を更新して、公園が新しくできる時に

ワクワクしてそこに関わるにはどうしたらいいかということ、皆さんの一つの目標にしてはどうか。市民検討会は本日が最後となるが、まだこれから先は長く、完成したときに、自分も関わった、自分の意見も入っている、積極的に関わるために何ができるかということが一つの目安になると思う。

もう1つは、建物が建つとその後30年40年、その建物は存続し続け、公園も存続していく。今ある図書館や公民館ですら、新しい提案が既に出てきており、あまり今のものにこだわり過ぎない方が良いのではないかと。20年後、30年後の図書館、公民館、児童館がどんな風になっているかを考えるのは難しい。先ほどパブリックコメントの意見でもあったが、相模原の周辺にも新しい複合施設がたくさんできており、皆さんで見学してみてもどうか。空間の使い方や運営の話もある。既存の公共施設の考え方が変わってきているということ、事務局よりたくさん知っているぐらいの勢いで、このようなものはどうかと提案できるくらいにすることを次の活動としてはどうか。見た方が早いというところもあるので、そんなことをお勧めして、最後のコメントにしたいと思う。どうもありがとうございました。(杉崎委員)

○： 講評というよりは、情報提供といった趣旨で挨拶させていただく。

先週、石川県立図書館を見学してきた。9か月で72万人来館し、1日の駐車場料金は3時間無料なのに、30分100円で1日4～5万円の駐車場収入があるとのことであり、大変驚いた。同図書館には調理スペースも交流スペースとして用意されており、料理教室みたいなこともできる。コロナの影響でカメラのある会議室も増えてきたが、そのカメラを使って、調理をする講師の手元を映すことができるよう、工夫をされていて面白いと思った。一方、調理スペースの稼働率を上げることなど課題もあるようだ。

今後の関わり方の1つの事例としては、図書館は1970年代以降、数が増えた施設であり、図書館を建設しようという動きに対する住民参加は多かったが、そのような関わり方は、持続可能なものではなかった。最近ようやく、「図書館友の会」というライブラリーフレンズ、サポーター集団を作っている。私が最近関わっているところでは、住民の方が、海外まで自腹で図書館を見に行ったというエピソードがある。その方々が、図書館が完成した後に、図書館友の会を作られて、未だに360人の会員がいる。現在でも起工式の日イベントには、多くの方が集まるとのことである。継続的に市民がどう関わっていくのかという関係性を考えていくことも重要だと思う。

国の会議などで市民が関わるといっても、大体が3～4回で終わってしまうものが多い。それに比べれば、やっぱりこういう市民熟慮として、特に後

半は、かなり議論できたのかなと、私自身も思っており、楽しく参加させていただいた。せつかくこういう得難いものができたので、持続可能な形で引き継いでいくことが重要だと思う。皆さん、本当にお疲れ様でした。職員の皆さんも、お疲れ様でした。せつかくここまで頑張ったので、良い施設になるように、職員の方を労いつつ、私の挨拶とさせていただく。どうもありがとうございました。（大谷委員）

- ： 皆さん、長時間どうもお疲れ様でした。長い期間をかけて、1つの議題に対して、議論を重ねていくというのは、相当なエネルギーが必要だったと思う。それなりの充実感というものは、私自身すごく感じている。後半は毎月開催されていたが、その中でも、今回は結構良かったと思う回や、色々と感情を揺さぶられるような回もあった。4年間25回に渡り開催できたことは、私自身すごく良い経験になったと思う。スピード感がなかったという話もあったが、地域を育てていくという意味では、「まちづくり」ではなく「まち育て」なのだと思う。だから、やはり時間がかかる。皆さんの意見を反映させていく中では、反映されないものもあるが、そこで自分の考えを言う、消化するということが、すごく重要なプロセスだったのではないかと思う。

事務局の方々も本当に苦勞がたくさんあったと思う。有識者の先生方も、ワークショップに参加するなど大変なことだったと思う。市民の皆様も、色々と感情を揺さぶられたり、色々なことをチェックしていただいたり、大変苦勞をされたと思う。最後になるが、「ワクワクすること」は、本当に子育てと一緒にある。うまくいかないことがたくさんあり、思い通りには育たない。けれども、最終的にはこの子がどんな風に育っていくのだろうかというワクワク感を一緒に味わうことが、すごく大事だと実感した。長い間どうもありがとうございました。（野口委員）

3 その他

事務局より、会議録の暫定版ができ次第、送付する旨を伝えた。

以上

出 欠 席 名 簿

まちづくりワーキンググループ

氏 名	出欠席
飯田 秀雄	出席
茅 弘秋	出席
今 美和子	出席
櫻内 康裕	欠席
白石 一郎	出席
濱野 麻利子	出席
森光 雄一郎	欠席

公共施設ワーキンググループ

氏 名	出欠席
太田 裕	出席
小方 明	出席
小野澤 行雄	出席
上遠野 イク子	出席
金 愛蓮	出席
佐伯 明美	出席
佐藤 正光	出席
高柳 眞木子	出席
古谷 明李	欠席
森田 朱音	欠席

公園ワーキンググループ

氏 名	出欠席
今井 寿	出席
荻野 弓希子	出席
荻原 ますみ	出席
城田 大介	出席
田崎 一宏	出席
山口 清孝	出席
山本 里紗	出席

有識者協議会委員

氏 名	出欠席
伊藤 眞木子	欠席
大谷 康晴	出席
押田 佳子	出席
小島 仁志	欠席
杉崎 和久	出席
野口 直人	出席
山口 直也	欠席